



広島大学病院

AYA世代 がん部門のご案内

Hiroshima University Hospital
AYA (Adolescent and Young Adult)
Cancer Program



広島大学病院

AYA世代の がんとは？

AYA (Adolescent and Young Adult) 世代とは、思春期から若年成人期、主に15歳以上40歳未満の人たちを指す言葉です。AYA世代では、各年齢層で小児がんと成人がんが様々な比率で発生しますが、それぞれの患者数が少ないため最適な治療法が確立しにくい現状があります。発見が遅れることも多いため、難治化する場合もあり治療方針の決定にも高度の専門性が求められます。

また、AYA世代は、学校生活や就職、仕事、結婚、妊娠、子育てといった、生活環境、社会環境が劇的に変化する独特の年代です。
治療だけではなく、
多岐にわたる支援が必要になります。

AYA世代特有の問題

学校生活 治療期間が長くなる病気も多く、休学せざるを得ないこともあります。ITを用いた学習システムの整備や、地域医療機関と連携し外来管理を中心とする治療を選択することも考慮されます。

進学・就職 病気の治療や後遺症が、進学・就職に影響を与え、人生設計や将来の夢の変更を余儀なくされることも起こり得ます。心理面のサポート、必要な情報の供給、精神的ストレスの軽減が大切です。

結婚・妊娠 子どもを作る能力のことを「妊孕(にんよう)能」といい、がん治療によって妊孕(にんよう)能が低下したり、失われたりする可能性があります。妊孕(にんよう)能を温存するための支援はAYA世代のがん治療では重要になります。

仕事・子育て 仕事や子育てに励む年代のがん治療は、家庭生活、社会生活への影響がとても大きくなります。患者さんご本人や家族の負担を軽減するためには、日常生活への影響を最低限にする必要があります。

社会保障制度 小児がんに対する「小児慢性特定疾患」の対象は18歳未満、重症な状態となった患者さんに適用される介護保険は40歳以上が対象となっており、狭間となるAYA世代の経済的負担が問題となっています。

がん医療充実を 図っています。

広島大学病院では AYA世代の

2018年4月にAYA世代のがん診療を専門とする「AYA世代がん部門」を設立しました。小児がん専門の診療科と若年成人から成人のがんを専門とする診療科が密に連携を取れる体制を作り、幅広い支援を行っています。

がん患者さんご家族に寄り添った、
きめ細やかなサポートを目指しています。

AYA世代がん部門長・造血器診療科長
一戸辰夫



広島大学病院がん治療センターでは、思春期から若年成人のがん患者さんの身体的・心理的・社会的支援を全人的に行うため、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代がん部門を設置しております。AYA世代とは主に15歳以上、40歳未満の年齢層を指しており、年間におよそ20,000人程度の方が、様々ながんに罹患していると推計されています。

この世代は、進学・就職・結婚・出産などの重要なライフイベントが重なり、年齢やご成長の段階によって、ご発病に伴って必要となる情報や支援も様々ではないと私たちは考えております。広島大学病院AYA世代がん部門では、患者さん・ご家族毎にきめ細かいサポートを提供するため、多職種連携チームが診療科・診療部門横断的に、カンサーボードの開催、治療中のご相談、治療後のフォローアップなどの活動を行っています。ぜひ、お気軽に私どものチームのメンバーにお声をお掛けください。

部門が目指すもの

- * 診療部門横断的な全人的 AYA世代がん治療体制の構築
- * AYA世代がんに対する定期的なカンサーボード (意見交換・共有・検討・確認等を行う合同カンファレンス) の開催
- * AYA世代がんに対する意思決定支援体制の充実
- * AYA世代がんにかかわる情報収集・提供体制の充実
- * AYA世代がんにかかわる臨床研究の推進
- * 就学・就労にかかわる相談支援体制の充実
- * 生殖機能 (妊孕能) 温存にかかわる相談支援体制の充実
- * 治療終了後の長期フォローアップ体制の構築



多職種連携チームによる 柔軟な体制で患者さんを支

チーム医療として、専門医の他、様々な職種のスタッフが協力し、AYA世代に特有の問題点に配慮しながら、最善の医療と日常生活・社会生活のサポートを提供できるように取り組んでいます。また、個々の患者さんを総合的に支援し、適切な診療方針を検討するため、多職種チームによる AYA 世代がんサポートボードを定期的に開催しています。

長期間入院
しなくちゃいけない?

教育支援

長期入院中の小中学生に対しては院内学級が整備されていますが、義務教育ではない高校生に対しては一人ひとりの希望に沿う形で入院中も学習を継続できるようにサポートします。入院棟には学習室を設置し、学習ボランティアやアクセシビリティセンターによる学習支援を行っています。また、教育委員会や高等学校などの協力を得て、原籍校との遠隔授業や病院内での高校受験なども可能となっています。

学校には通えないのかな…

妊孕(にんよう)性温存支援

がん治療が生殖機能に影響し、妊娠するための力が弱まったり、失われたりすることがあります。がん相談では、主治医と連携し妊孕(にんよう)性温存に関する一般的な情報提供や広島県の助成金に関すること、妊孕(にんよう)性温存施設の紹介等を行っています。温存を希望された場合は、温存施設と連携し安心して受診ができるよう支援します。

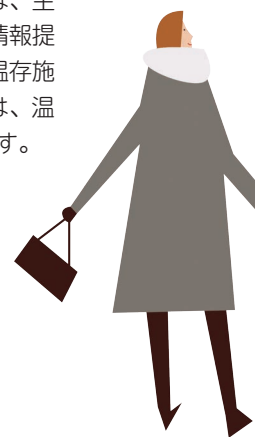
就労支援

がん相談支援センターでは、「病気のことを職場にどう伝えれば良いだろうか」「仕事は続けられるだろうか」「仕事についてどこで相談すれば良いのだろうか」等のご相談に対応しています。治療と仕事の両立のために必要な情報を整理し、必要に応じて勤務先の産業医や地域の産業保健センターとも連携します。また月に一度(毎月第2木曜日)ハローワーク広島東の専門担当者「就職支援ナビゲーター」による出張就職相談を行っています。

治療費はどのくらい
かかるだろう?

経済・生活支援

治療を受ける上で、医療費や生活費等の経済面の不安を感じる方は少なくありません。経済的な負担を軽くする制度としては、高額療養費制度、傷病手当金、医療費控除、障害年金等があります。また各種障害者手帳の取得によって、日常生活におけるサービスが利用可能になることもあります。現在は AYA 世代に特化した社会資源はありませんが、負担軽減のため患者さんに応じた情報提供をします。





薬剤師

ソーシャル
ワーカー
・
チャイルドライフ
スペシャリスト

心理士

AYA世代キャンサーボード
 主担当診療科に加え、がん化学療法科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科を含む複数の専門診療科、緩和ケアセンター・リハビリテーション部門スタッフ、さらにはがん看護専門看護師、薬剤師、心理士、ソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリストなどが集い、2週間に1回のペースで開催しています。その時点での最適な治療選択肢の検討、妊孕性温存、復学・就労・心理・社会支援、トランジション（小児期から成人期医療の移行）や長期フォローアップを含め全人的なサポートに努めています。

専門医
・
看護師
・
歯科医師

栄養士

理学療法士
・
作業療法士
・
言語聴覚士

院外ネットワーク
 外来診療ネットワーク
 妊孕性温存ネットワーク
 就職ネットワーク
 緩和医療ネットワーク

えます。

子どもに
どう伝えよう？



治療しながら社会復帰
できるだろうか…

受験や就職はどう
なるのだろうか…

心理支援

AYA世代は進学や就職、恋愛、結婚、育児などの生活状況の変化を迎え、特に思春期は多感な時期です。この時期の病気の治療にあたっては、治療が通学や通勤に及ぼす影響、外見の変化など数々の心理的ストレスがあります。同年代の友人と比較し不安や孤独を感じるかもしれません。これらの悩みに、臨床心理士、看護師、医師など様々な職種のスタッフが、適切な情報の提供を行いながら不安に寄り添い、問題の解決に努めています。本人だけでなく、家族の心理支援にも対応しています。



各診療科が連携し、最善で

主なAYA世代が

小児科

急性白血病・リンパ腫などの造血器腫瘍や骨軟部肉腫などの固形腫瘍の薬物療法・造血細胞移植を行っています。公認心理師やチャイルドライフスペシャリスト、院内保育士ならびに院内各部門との連携により最適な医療を提供しています。

小児外科

小児科と連携し、小児がんやAYA世代がんに対する手術療法、化学療法を集学的に行っています。当科が研究事務局を務める日本小児肝がん研究グループをはじめとする、多くの全国グループで実施されている最新の臨床試験による治療を受けていただくことが可能です。

血液内科

主にAYA世代の急性白血病・リンパ腫に対する薬物療法と造血細胞移植を行っており、院内各診療部門との積極的な連携により、患者さんとご家族のニーズに応じた全人的なチーム医療を提供しています。

がん化学療法科

AYA世代の原発不明癌、胚細胞性腫瘍や軟部肉腫などの希少がんを含め、様々ながんに対する化学療法を行っています。さらに、外来化学療法を受ける患者さんのサポートを化学療法室の薬剤師・看護師とともに提供しています。

脳神経外科

AYA世代に多い脳腫瘍に対して、生体情報画像、手術ナビゲーション、脳機能モニタリング、覚醒下手術、内視鏡手術、術中MRIを駆使して最大限の腫瘍摘出と後遺症を残さない手術を心がけています。

乳腺外科

若い方の乳がん治療では、様々なことを治療に関連して考えていく必要があります。妊娠する可能性の保存（妊孕性温存）や遺伝性の乳がんについてのご相談、また、乳房の手術は整容性を重視した内視鏡手術や、乳房再建などの選択も可能です。ご心配なことは何でもご相談ください。

泌尿器科

AYA世代の精巣腫瘍に対する集学的治療を行います。治療の過程で想定される生殖機能や性功能への影響といったデリケートな課題についても、院内各診療部門および生殖医療ネットワークとの連携を介して対応します。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

AYA世代の甲状腺癌、舌癌および咽頭癌などに対する手術、抗がん剤、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行います。患者さんご本人と家族の治療中・治療後の充実したサポートも院内連携により提供しています。

スムーズな治療に努めます。

ん診療科・部門

整形外科

骨腫瘍と軟部腫瘍の患者さんに対する最新の診断と治療を行っています。それに付随する AYA 世代特有の問題について他診療部門と協力し、全人的なチーム医療に取り組んでいます。

顎・口腔外科・口腔顎顔面再建外科

口腔がん治療を行う際、色々な科と協力して根治性、整容性（顔ぼう、見た目）、機能性（咀嚼、えん下）を十分考慮して治療するようにしています。また、他の科で抗がん剤、放射線治療を行う際は、治療が完遂できるように口腔ケアを積極的に行っています。

放射線診断科

CT、MRI、PETCT 等の画像診断を通じて、患者さん一人ひとりの病気の診断、治療方針の決定、治療効果の判定等に貢献しています。

リハビリテーション部門

AYA 世代がん患者さんの機能訓練だけでなく、障がい者スポーツや就学・就労を含めた社会参加を支援しています。自宅や学校・職場を訪問し、必要とされる社会制度の導入や環境調整を行います。患者さんやご家族が希望する生活を実現する部門です。

産科婦人科

婦人科悪性腫瘍では、治療が直接妊孕性の喪失につながる可能性が高いため、より妊孕性温存に配慮し、その適応に関して慎重に判断しています。また、AYA 世代がん患者さんの妊孕性温存のための精子・卵子・卵巣組織の凍結保存を、県立広島病院の生殖医療科が中心となって行っています。

放射線治療科

放射線治療は、がん放射線を集中して照射することにより、臓器機能を温存したままがんを消失させる「切らずに治す」治療法で、がんの集学的治療の一端を担っています。当院では、定位照射（SBRT）・強度変調放射線治療（IMRT）といった最新の高精度放射線治療に注力しています。粒子線治療（陽子線・重粒子線）については、特に小児・AYA 世代などでメリットが大きいと考えられる場合には積極的に情報提供を行っています。

薬剤部

AYA 世代の診療の薬物治療に携わっています。的確な薬学的管理の実践に基づいて、最適な薬物治療の提供を目指します。妊孕性などの様々な問題に直面しますが、横断的に各診療科と連携していきます。

緩和ケアチーム

痛みやだるさといった体の症状や、不安、不眠、イライラする、といった精神面の辛さ、治療や療養の選択に関する悩みなど、病気や治療に関する問題に専門的知識を持った医療スタッフが対応しています。

「AYA世代がん」相談窓口

当院の「がん相談支援センター」は、子どもから大人までのがん患者さん、ご家族、地域の方が無料で相談できる窓口です。がん相談では、「病気や治療について」「治療を受けながらの就学、就労、結婚や出産、育児などライフイベントに関すること」「外見のケア」「治療後のこと」などのお悩みについて、幅広い職種のスタッフと連携し、少しでも安心して療養できるよう支援します。一人で悩まず、ぜひ「がん相談支援センター」を利用してください。



場所

診療棟1F がん治療センター内

開室時間

月曜～金曜（外来休診日を除く）9:00～17:00

対象

患者さんやご家族、地域の方々 **どなたでも無料** で利用できます。

相談方法

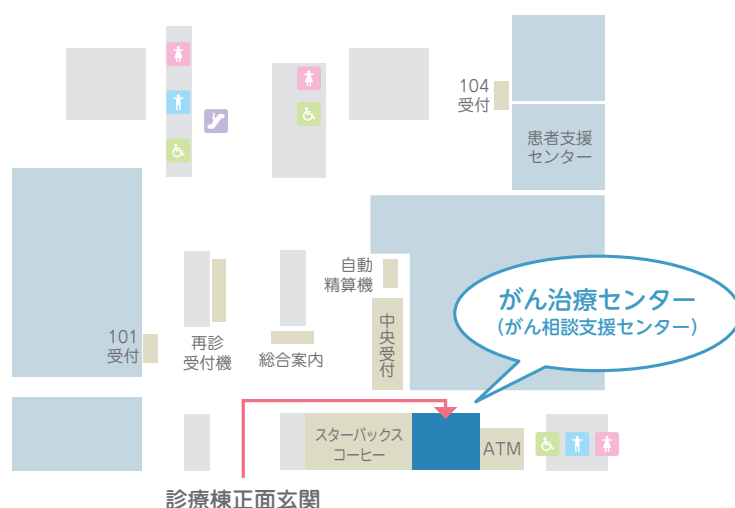
電話、来室 による相談

がん医療相談
TEL: 082-257-1525

小児がん医療相談（要予約）
TEL: 082-257-1648

ご相談いただいた内容については、秘密を厳守いたします。

がん相談支援センター案内図



広島大学病院

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 ★ TEL: 082-257-5555（代表）

このパンフレットは厚生労働科学研究費補助金「AYA世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究班」（研究代表者：清水千佳子）の助成を受けて作成されています。